



屈辱の時間はまだ終わらなかった。
処女を失った赤緒はその後もしバと
ハマドの責めを受け続けた。
身体を弄ばれ、その全てを犯し尽くさ
れる。赤緒は恐怖と悔しさを噛み殺し
ながら、この残酷な時間が過ぎるのを
ただ耐えるしか出来なかった。

ふふふ、
ほんと……良い眺めよ
赤緒……

……

こんな綺麗な身体で
処女だったなんて……

両兵は何をしていた
のかしらね



でも安心しなさい
これからは毎日、楽しま
せてあげるわ

愛した男の身体で…ね
ふふ…っ





ん
ん
...

ん
ん
...

ぎ
ぎ
...

お
っ
...

いいわよ赤緒
その声、もつと聞か
せて…

もつと強く鳴いて
みせて

んあッ

はあ

ああッ

あん

グ
イ

グ

…





あッ

イヤあッ

モロ...

やめ...

あんッ

はあッ

ああッ

んあッ

グッ

グッ

ちゅッ

ちゅッ

もつと気持ちよく
なりたいでしよう？

口を開けなさい

あッ

え？

はあッ

グッ

グッ

ちゅ

ちゅ







んん
んん
んん

あむ
あむ
あむ

ちゅ

ちゅ

はあ
あ

んちゅ

ちゅ
ちゅ



私はもう行くわ

ハマド、私が戻るまでに
必ず赤緒を孕ませなさい

はい…

ふふ、いいわ

じゃあ赤緒、あとは
二人で楽しんでちようだい





他の仲間も悲惨な状態である事は赤緒にも容易に想像できた。シバはきっとその様子を確認しに行ったのだろう。

しかしそれを考える余裕は今の赤緒にはなかった。

シバの退室後、ハマドは容赦なく、再びそそり立った肉棒を赤緒の中に突き刺す。

赤緒の恐怖に染まった嬌声が響き渡る。地獄はまだ始まったばかりだ。















